

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校 学校だより No.12

令和 8年2月25日(水)

2月 校長 玉置和也

日々の学びのまとめへ

もうすぐ3月。木々が少しずつ芽吹き始め、温かな日差しを感じるようになってきました。コミスクの活動は、1月の1、2年生の昔の遊び体験、6年生のしおりづくりが最後となりました。今年度、各学年4回以上、年間30回以上、地域の方と活動ができました。地域の方々々と充実した活動ができたこと、ご協力いただいたことに深く感謝いたします。

さて、その6年生がしおりを作ったときの様子です。6年生の20人に対して、更生保護女性の方が8人も来てくださり、1人2つずつしおりを作りました。表には自分に向けた好きな言葉や座右の銘のような言葉が書かれています。もう一つには家族など身近な人へのメッセージを書いていました。「感謝」という文字がある子、「たまにはゆっくり休んで」と家族をねぎらう言葉を書いている子もいました。その短冊形のしおりの裏側に更生保護女性の会の方々が集めてくださったヒオラや千日紅などを思い思いにレイアウトしました。「この草花入れてみようかな。」と並べていると、「すてきな感じだね。」とほめてもらったり、「こっちもいいよ。」とアドバイスをもらったりしながら、オリジナルのしおりを完成させました。この時間がさらに心がほっこりするすてきなひと時になったのは、家庭科で製作した袋を、講師の方々に見てもらったことです。12月までの家庭科の時間にも更生保護女性の方から縫い方を教えてもらっていたので、完成した袋を披露したのです。縫い目を見せ、「こんなふうにできました。」と説明、更生保護女性の方々ができる作品を手に取り「上手に縫ったね。」とお話ができました。そして、「教えてくださり、ありがとうございました。」と6年生がお礼を述べている姿は、コミスクのめあて「ありがとうを伝えよう」そのものであり、1年のまとめの姿のようでした。



他には、11か月前に入学した1年生が立派に成長しています。先日、こども園の年長さんが半日入学で小学校へ来ました。これに向けて、1年生はこの1年でできるようになったことや小学校の生活について、年長さんにわかりやすく伝えるよう何度も練習してきました。ひらがな、かたかな、漢字が書けるようになったこと、足し算ができるようになったこと、歌や鍵盤ハーモニカ、縄跳びの発表、作った図工の作品の紹介をしました。最後には、「困ったことがあっても大丈夫。おにいさん、おねえさんが教えてくれます。安心して入学してきてください。」と言って、発表を終えました。発表の後には、年長さんの手を引き、手を添え、手招きして輪を作って座り、1年生の子たちが読み聞かせをしました。おにいさん、おねえさんになり、上手に読み聞かせました。入学してくる新1年生に手本を示す、まとめの姿でした。



いよいよ6年生は卒業していきます。それぞれの学年のまとめをして、6年生は自信と誇りをもって卒業できるよう、1年生から5年生は1つ学年が上がる気持ちをもてるように、最後の3月を締めくくります。